独立行政法人国立美術館
国立アートリサーチセンター
National Center for Art Research

PRESS RELEASE
2024 年 12 月 18 日
独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター

多摩美術大学のデュシャン作品レプリカ試作群アーカイヴ化記念
マルセル・デュシャン《大ガラス》レプリカをめぐる国際シンポジウム
～2025 年 3 月 1 日(土)13:30～16:30 開催～

国立アートリサーチセンター（略称：NCAR、センター長：片岡真実）と多摩美術大学アートアーカイヴセンター（略称：AAC、所長：光田由里）は、**NCAR シンポジウム 004・第 7 回多摩美術大学アートアーカイヴシンポジウム「マルセル・デュシャン《大ガラス》レプリカをめぐって――ストックホルム・ロンドン・東京・パリ」**を、2025 年 3 月 1 日（土）に多摩美術大学八王子キャンパスにて開催します。

シンポジウムのフライヤー

（デザイン：加藤勝也）

既製品の便器にサインをした《泉》という作品で、既存の「アート」の概念を大きく揺るがし、現代美術の先駆者ともいわれるマルセル・デュシャン（1887-1968 年）。その代表作のひとつ《彼女の独身者たちによって裸にされた花嫁、さえも》（通称：大ガラス）（1915-23 年、フィラデルフィア美術館蔵）は、8 年の歳月をかけて制作された未完成のオブジェで、解釈の幅が広く、多くの議論を呼ぶ作品として知られていますが、移送が困難なため、展覧会の機会などにこれまで 3 点のレプリカが制作されてきました。アジアにおける唯一のレプリカ《大ガラス東京ヴァージョン》（1980 年、東京大学駒場博物館蔵）は、デュシャンの死後、彼と交流のあった瀧口修造と東野芳明（多摩美術大学教授、当時）が監修を務め、東京大学と多摩美術大学の学生らがファブリケーター（制作者）となって制作されたものです。

レプリカの制作に先立って、多摩美術大学の学生らは試作群を手がけており、その一部が同大学に保管されていましたが、本年、デュシャンの遺品を管理し作品を世界に広めるマルセル・デュシャン・アソシエーションの承認を受け、同試作群を他の関連資料群とともに AAC で正式にアーカイヴ化することになりました。

これを記念し、ヨーロッパと日本で制作された《大ガラス》のレプリカと関連資料を考察する初めての機会として国際シンポジウムを開催します。ストックホルム、ロンドン、パリ、そして東京から、レプリカ所蔵機関のキュレーターや研究者らが一堂に会し、それぞれの制作経緯と歴史、関連アーカイヴを含めたレプリカの保存と活用について情報を共有するとともに、マルセル・デュシャンの代表作をレプリカの視点から見直し、同レプリカが持つ特性やアーカイヴ化することの意義、今後の具体的な活用のアイディアを提案します。

NCAR は「アートをつなげる、深める、拡げる」をミッションに、情報収集と国内外への発信、コレクションの活用促進、人的ネットワークの構築、ラーニングの拡充、アーティストの支援など、わが国の美術館活動全体の充実に寄与する活動に引き続き取り組んでいきます。

PRESS RELEASE

2024 年 12 月 18 日

独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター

シンポジウム概要

タイトル	NCAR シンポジウム 004・第 7 回多摩美術大学アートアーカイヴシンポジウム **「マルセル・デュシャン《大ガラス》レプリカをめぐって――ストックホルム・ロンドン・東京・パリ」**
開催日時	2025 年 3 月 1 日（土）13:30～16:30
会場	多摩美術大学八王子キャンパス レクチャーA ホール （東京都八王子市鑓水 2-1723）
内容 （予定）	司会：千々岩修（多摩美術大学教授） ■開会あいさつ 青柳正規（多摩美術大学理事長） 片岡真実（国立アートリサーチセンター長） ■事例紹介（予定） ・「《ストックホルム・ヴァージョン》（1960）制作経緯とレプリカのヴァリエーション」アンナ・テルグレン（ストックホルム近代美術館 写真部門キュレーター、リサーチ部門長） ・「《ロンドン・ヴァージョン》（1963）経緯と修復」ナタリア・シドリーナ（テート美術館 国際近代美術部門キュレーター） ・「《東京ヴァージョン》（1980）経緯と日本のデュシャン研究ネットワーク」光田由里（AAC 所長、多摩美術大学教授） ・「《大ガラス》レプリカ研究」パスカル・ゴブロ（映像作家） ・「《大ガラス》（東京大学駒場博物館蔵）所蔵者の立場から」折茂克哉（東京大学大学院総合文化研究科　駒場博物館助教） ・「《東京ヴァージョン》制作者の立場から」有福一昭（有明教育芸術短期大学教授） ■ディスカッションと質疑応答 モデレーター：岡部美紀（国立アートリサーチセンター国際発信・連携グループリーダー） ■閉会あいさつ 内藤廣（多摩美術大学学長）
参加定員	200 名（要事前申込、先着順）
参加費	無料
申込方法	https://forms.gle/nZbHTrRe8x4JhpEC9 上記 URL よりお申込みください。 申込締切：2 月 28 日（金）23:59 まで（定員に達し次第受付終了） **※取材をご希望の方は末尾に記載の広報事務局までご連絡ください。**
主催	国立アートリサーチセンター 多摩美術大学アートアーカイヴセンター

PRESS RELEASE

2024 年 12 月 18 日

独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター

協力	多摩美術大学メディアネットワーク推進委員会
その他	・日英同時通訳有り。 同時配信無し（後日アーカイヴを NCAR ウェブサイトに掲載予定）。 ・当日、学内の食堂、コンビニエンスストアは閉店しております。 お食事等のご購入はできかねますのであらかじめご了承ください。 ・駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。
お問い合わせ	＜一般参加者＞ 多摩美術大学アートアーカイヴセンター aac@tamabi.ac.jp ＜報道関係者＞ 国立アートリサーチセンター広報事務局 ncar@prap.co.jp

登壇者プロフィール

アンナ・テルグレン（博士）　Anna TELLGREN
ストックホルム近代美術館 写真部門キュレーター、リサーチ部門長

これまでにラース・ツンビヨルク、インタ・ルカ、アニカ・エリザベス・フォン・ハウスヴォルフなど、北欧圏で活動するアーティスト、写真家の個展をはじめ、数多くの展覧会を企画。2011 年、「もう一つの物語：ストックホルム近代美術館の写真コレクション」展を担当。また美術館の 50 周年を機に出版された『ストックホルム近代美術館の歴史 1958-2008』（2008）の編集に携わった他、美術館の元館長でマルセル・デュシャン作品収蔵に尽力したポントゥス・フルテンに関する書籍も手掛けている。

ナタリア・シドリーナ（博士）　Natalia SIDLINA
テート美術館 国際近代美術部門キュレーター

近代の亡命/移民芸術（émigré art）を専門とする。20 世紀初頭の東西ヨーロッパにおける美術的実践を通じた文化横断的な歴史やつながりの形成、グローバルな知の交換に焦点をあてた研究・企画を行う。2015 年より現職。現在 2025 年に開催予定の「The Theatre of Picasso（ピカソの劇場）」展に向け、ピカソ作品におけるパフォーマンス性について研究を進めている。近年の展示に「ゾフィー・トイバー＝アルプ」（2021）、「セザンヌ」（2022）、「表現主義者たち：カンディンスキー、ミュンターと青騎士」（2024）など。

PRESS RELEASE

2024 年 12 月 18 日

独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター

光田由里　MITSUDA Yuri

美術評論家、多摩美術大学大学院 教授、アートアーカイヴセンター所長

兵庫県生まれ。専門は 20 世紀美術史・写真史。富山県美術館、渋谷区立松濤美術館、DIC 川村記念美術館の学芸員を経て現職。著書に『高松次郎 言葉ともの』(水声社、2011)、『写真、芸術との界面に』(青弓社、2006、日本写真協会賞）ほか。共著に『日本美術の近現代史』(東京書籍、2014)、『美術批評集成 1955–64』（藝華社、2021）など。企画展に「ハイレッド・センター 直接行動の軌跡」(2013–14)、「鏡と穴―写真と彫刻の界面」(2017)、「描く、そして現れる――画家が彫刻を作るとき」(2019）ほか多数。

パスカル・ゴブロ　Pascal GOBLOT

パフォーマー、映像作家、映画監督

2020 年に「Richard Hamilton in the reflection of Marcel Duchamp（マルセル・デュシャンを通して見たリチャード・ハミルトン)」（SCAM スター賞）を発表。2006 年以降、マルセル・デュシャンの《彼女の独身者たちによって裸にされた花嫁、さえも (大ガラス)》に着目し、《The Legend of the Large Glass（大ガラス伝説)》という名の一連の作品を発表している。その一環として 2014 年に《大ガラス》のコピーを 10 年の期限付きで制作し、2024 年にそれを破壊するパフォーマンス《To Be Broken》を行った。

関連イベント

タイトル	多摩美術大学アートアーカイヴセンター所蔵資料展 6 《大ガラス東京ヴァージョン》 ガラス・スタディ アーカイヴ展
会期	前期：2025 年 3 月 1 日（土）～3 月 15 日（土） 後期：2025 年 4 月 1 日（火）～5 月 17 日（土）
時間	10:00～17:00
休館日	日曜日、5 月 1 日（木）～5 月 4 日（日）
会場	アートアーカイヴセンターギャラリー （多摩美術大学八王子キャンパスアートテーク2F）

展覧会のフライヤー

（デザイン：加藤勝也）

PRESS RELEASE

2024 年 12 月 18 日

独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター

多摩美術大学アートアーカイヴセンター（AAC）概要

多摩美術大学（東京都世田谷区、八王子市、学長：内藤廣）の附属施設。AAC は現在、19 の資料体を有し、アーカイヴの構築、公開、活用、研究を行っています。活動の成果は、シンポジウムや年報／紀要『軌跡』にて発信しています。また、AAC の資料を活用した展覧会をアートアーカイヴセンターギャラリー（八王子キャンパス）にて定期的に開催しています。

公式サイト：https://aac.tamabi.ac.jp

X/Instagram：@tamabi_aac

国立アートリサーチセンターの事業について

国立アートリサーチセンター（NCAR）は、国内外の美術館、研究機関をはじめ社会のさまざまな人々をつなぐアート振興の新たな拠点として、2023 年 3 月に設立されました。NCAR の事業やこれまでの活動についてはウェブサイト（https://ncar.artmuseums.go.jp/）をご覧ください。

＜報道関係のお問合せ先＞
国立アートリサーチセンター広報事務局（株式会社プラップジャパン内 担当：名取・渡辺・星川）
TEL：03-4570-2273（平日 10:00～18:00）
FAX：03-4580-9127 E-mail：ncar@prap.co.jp